

大学応援団の在り方に関する研究会 報告書2018 概要

平成30年3月

目次

はじめに	3	6 魅力について	41
1 現状について	4	7 組織風土について	49
2 活動について	7	8 応援団員のスピリットについて	56
3 目的について	12	9 大学応援団という「文化」について	60
4 具体像について	17	10 今後の大学応援団のための提言について	65
5 成り立ちについて	37		

◆ はじめに ～大学応援団の在り方に関する研究会とは～

• 研究会の目的

大学応援団の現状を打破し、未来に残していくため、大学応援団とはどういう存在なのか（その目的、魅力など）について明らかにすることを目的とします

また、大学応援団のうち、いわゆる「リーダー部」を主な対象として討議しました

※本研究会では、応援を主目的とする組織を総じて「大学応援団」と呼びました

• 参加会員

大学応援団に所属していた応援団員など（現役生を含む）で構成しています

21校32名(平成30年3月現在)により幅広い議論を行いました

• 取りまとめ

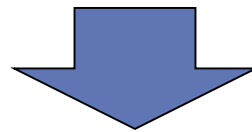
議論を報告書（本書）にまとめ、公表します

◆ 1 現状について

- 大学応援団は戦前から存在しており、日本の歴史に根ざした特有の存在
- しかし現在、殆どの大学応援団で所属学生の減少傾向が続いています。何故でしょうか？
- その理由は、例えば
 - (1) 厳しい団体とされている大学応援団を学生が避けがち
 - (2) 一部の人にとっては、応援の効果そのものに対する疑問
- しかし、最大の原因は・・・

◆ 1 現状について

- 大学応援団の目的（存在意義）、魅力（面白さ）が伝わっていないため、と考えられます



このため

- 大学応援団の姿をなるべく簡単に紹介するとともに、研究会として、今後の大学応援団の発展に向けた提言を行います

まずは、大学応援団の今の活動を紹介します

◆ 2 活動について

- 大学応援団がどのような活動を行っているかは、実はあまり知られていません
- そのため大まかな活動内容を以下のとおり紹介します

(1) 学内の活動について

ア 応援活動について

イ 応援以外の活動について

(2) 学外の活動について

◆ 2 活動について

(1) 学内の活動について

ア 応援活動について

- 大学応援団は運動部の応援を目的に誕生しました
- 硬式野球部の応援を中心に様々な応援活動を行っています
- 文化系団体に対しても応援を行うことがあります

◆ 2 活動について

(1) 学内の活動について

イ 応援以外の活動について

- 一般学生を運動部の試合会場に誘うため学内で応援形式を披露するほか、運動部などに対する壮行会を行うことがあります
- 入学式、卒業式、学園祭、学内のイベントなどで「演技[※]」や応援形式を披露しています
※演技とは、大学応援団それぞれに伝わる特殊な技術です。詳しくは後で説明します。
- 各団体の発表会における会場設営の手伝い、公的団体が実施する献血活動や募金活動への協力も行うことがあります

◆ 2 活動について

(2) 学外の活動について

- 大学を卒業した方や民間企業からのイベント出演の依頼、老人ホームなどでの演技披露、地域の祭りへの協力などを行っています
- このほか、大学応援団が自らイベントを主催することもあります
- 全国各地に大学応援団で構成された連盟などがあり、その中での交流は盛んです

大学の応援団は、どのような目的があって活動しているのでしょうか

◆ 3 目的について

大学応援団の目的は、主に以下のとおりです

- (1) スポーツの応援等や地域貢献を通じて大学全体を盛り上げる
- (2) 高等教育機関たる大学の学生に相応しい活動にまい進することで大学そのものの名声を高める
- (3) 活動を通じて社会に貢献できる人材を育成する

◆ 3 目的について

(1) スポーツの応援等や地域貢献を通じて大学全体を盛り上げる

- 大学応援団は大学全体の活性化を目的として活動しています
- 例えば効果的な応援活動を行うことで様々な人々の気持ちを高めることができます
- 学生の母校愛を高めるとともに、大学の地域との繋がりを強めることができ、結果として大学の発展に繋がります

⇒大学応援団は他の課外活動と異なり、利他的な性格をもつ団体です

◆ 3 目的について

(2) 高等教育機関たる大学の学生に相応しい活動に
まい進することで大学そのものの名声を高める

- 大学応援団らしい適切な活動を行うことで、大学そのものの名声を高めることを目的としています
- 大学応援団は、「応援」という分野で学生の中心的な立場であり、大学の名前に恥じない姿で運営されることが望まれています
- 大学応援団の活動が現役学生の母校に対する誇りに繋がることも望まれています

◆ 3 目的について

(3) 活動を通じて社会に貢献できる人材を育成する

- 様々な経験を通じて応援団員の成長を促し、社会に貢献できる人とすることを目的としています
- 学年別に役割が異なり、それぞれ成長を促す機能を有しています

⇒この目的は、目的（1）（2）を達成するための活動の中で、結果として得られる目的です

⇒人材の育成は、大学応援団における最終的な目的でもあります

もっと詳しく大学応援団の姿を紹介します

◆ 4 具体像について

大学応援団の姿を以下のとおり紹介します

- (1) 大学応援団の位置づけについて
- (2) 応援について
- (3) 演技について
- (4) 演技の披露について
- (5) 練習について
- (6) 押忍について
- (7) 服装について
- (8) 上下関係について
- (9) 団旗について

◆ 4 具体像について

(1) 大学応援団の位置づけについて

- 大学応援団の学内の位置づけは大学によって千差万別です
- 体育会に所属し、活動を行う団体が多いです
- 体育会に属さず、独立して活動を行う団体もあります
- 学内の自治組織の一つ、または大学直属の組織として活動する団体もあります

⇒いずれにしても大学応援団の活動や目的に大きな違いはありません

◆ 4 具体像について (2) 応援について

大学応援団の応援とは

- 観客をリードし会場一体となった応援
- 大学応援団単独かそれに近い形での応援
のどちらかを行うことが多いです
- 応援方法は、全国的には統一されていません
大学応援団同士の打ち合わせと競技ルールに合わせて行っています

◆ 4 具体像について

(2) 応援について

大切なことは・・・

- 応援は、試合を行う選手たちを鼓舞するものでなければなりません

⇒乱れた応援、笑われる行動は慎むようにしています

⇒試合展開、会場の雰囲気を読んで、臨機応変な応援を行うべきです

つまり

- 応援の相手はその場の主役なので、彼らを奮起させる応援が必要と考え、取り組んでいます

◆ 4 具体像について

(3) 演技について

- 演技とは、大学応援団それぞれに伝わる特殊な技のことです
- 各大学応援団を特徴付けるものです
- 演技には「型」があり、応援技術を応用・圧縮したものです
- 完成度の高い演技は美しく芸術性があります
- 演技は、全体を指揮する人と、指揮者に従って動く人で構成されています
- 声だけ、声と太鼓だけ、演奏を付ける、拍手だけ、といろいろなバリエーションがあります

◆ 4 具体像について

(3) 演技について

- 演技にはモチーフになったイメージがあります
- 次の世代に伝える中で、演技の成り立ちを理解することは大切です
- 一方、代々継承してきましたが、より優れた技に高めることも認められてきました
- より優れた技にするためには
⇒自分たちで創意工夫するのは勿論、大学応援団が互いに高め合うことも必要です

◆ 4 具体像について

(4) 演技の披露について

- 演技の披露は、「リーダー公開」などといえます
- 大学内の行事や大学外の活動で行うことが多いです

リーダー公開を行う理由は・・・

- 応援団員の技術を高める + 演技そのものを磨く
- 応援等であまり使用しない演技を見せることで、
一般の人などに大学応援団への理解を深めてもらう

など

さらに、演技の奥深さとして

◆ 4 具体像について

(4) 演技の披露について

- 演技の鍛錬を重ねると、時間を忘れるほどの極度の集中状態「フロー」を体験することができます
- これはスポーツなどに集中することと同じです
- この状態にまで成長することができれば、本来以上の高パフォーマンスを発揮することができるようになります

⇒ 「フロー」の感覚は純粹に楽しいものです

◆ 4 具体像について

(5) 練習について

- 大学応援団では、自主練習のほか、全員そろっての練習も行っています
- 練習では、拍手や発声、演技の動き等を反復して行うほか、体力を向上させるトレーニングを行っています
- 必要な技術を養うために練習が行われており、今は非科学的な練習は少ないです

しかし

- 一部には特異な練習も存在します
⇒合理性がないということで、廃止されるべきでしょうか？

◆ 4 具体像について

(5) 練習について

- 大学応援団には、継承していくべき価値観などがあります
- 一見特異な練習も、大学応援団の価値観などを継承する仲間として迎え入れるための通過儀礼のようなものです
- その練習を乗り越えた時、大学応援団を継承する仲間と認められるようになります
- もちろん、体罰や虐めなどは徹底的に排除すべきです

◆ 4 具体像について

(6) 押忍について

- 「押忍」は大学応援団を表す特徴的なキーワードです
- 上級生に対する下級生の挨拶や相づちとして使われることが多いです
- 「押忍」の起源はいろいろな説がありますが、それは精神性を表す言葉であり、鍛錬を積む人を具現化する言葉ととらえています
- 言葉の意味を理解し適切に使用することが大切です

◆ 4 具体像について

(7) 服装について

なぜ学生服を着ているのでしょうか

- 大学応援団の活動は、学生服が一般的といわれています
- ただし、全ての大学応援団に共通しているわけではなく、動きやすさからトレーナーなどを導入する団体もあります
- かつては男子学生の一般的な服装は学生服で、一般学生をリードする応援団員にとって、学生服の着用は当然でした
- 大学では私服が一般化しましたが、男子学生の標準服を守ってきた結果、現在も学生服を着用している団体が多いです

◆ 4 具体像について

(7) 服装について

- 大学応援団では、襟が高い、上着やズボンの裾が長いなど、加工した学生服（変形学生服といわれています）を着用していることが多いです
- なぜ変形学生服を着用しているのでしょうか

◆ 4 具体像について

(7) 服装について

Q 1 なぜ襟が高いのでしょうか

⇒うつむきにくくするため

Q 2 なぜ裾を長くしているのでしょうか

⇒尻を見せる失礼がないようにするため

Q 3 なぜズボンの裾が大きいのでしょうか

⇒激しく動いても服が破れないようにするため

- このように、それぞれ理由があります
- ただし、機能性に関係ない過度な変形は行わないよう気を付けています

◆ 4 具体像について

(8) 上下関係について

- 大学応援団では上下関係を大切にしています
- 四年生は「幹部」と呼ばれ、各幹部をまとめる者を「団長」などといいます
- 団長はトップとしての自覚を持ち、人の模範となる姿勢と確固たる信念が必要です
- 上下関係の中にも信頼感があるべきで、上級生は尊重されるに足る身体・精神を身に付けなければなりません

◆ 4 具体像について

(8) 上下関係について

なぜ大学応援団は上下関係を大切にしているのでしょうか

- 応援活動を適切に行うため
 - = 団長などに責任を集中させ、一丸となって応援できるようにするためです
- 安定的な団体活動を行うため
 - = 各団員のそれぞれの役割を明確化し、安定的な運営ができるようにするためです
- 組織の記憶を次世代に継承するため
 - = 活動内容を実体験として正確に引き継ぐことで、組織の記憶を次世代に継承するためです

◆ 4 具体像について

(8) 上下関係について

- 過去には上下関係が過度になり過ぎることもあったため、適正な運用となるよう工夫しています
- 大切なことは、上下関係が維持されている背景を踏まえ、時々の最上級生らが適正な団体運営を行うことです

◆ 4 具体像について

(9) 団旗について

- 大学応援団を象徴する団旗はととても大きいです
- これは、試合会場などで選手らに母校の応援団の居場所を表すことを目的としています
- 団旗は、例えば互いの健闘をたたえ、エール交換の際は団旗を下げ敬意を表すなど、大学応援団の意思も表現しています
- 団旗は、大学応援団を象徴するものの一つとして、大切に引き継がれています

大学の応援団には、どのような歴史が
あるのでしょうか

どうやって今日まで続いてきたのでしょうか

◆ 5 成り立ちについて

- 大学応援団の成立にはいろいろな説があります
- 明治時代に、ボートレースや野球の試合から始まったとする説もありますが、定かではありません
- 野球の応援から様々な応援手法が考案され、大学応援団の応援形式が固定化されていきました
- そして、戦前にあった大学応援団の多くは、太平洋戦争が始まった頃に一旦解散し、戦後に復興しました
- 明治後半から戦前が、大学応援団の黎明期といえます

◆ 5 成り立ちについて

- 戦後、多くの大学で応援団が作られました
- 学内を元気づけるため、応援の統制のため、といった理由が多かったようです
- 現在に伝わる応援形式の多くが戦後から昭和30年代までに整理されました
- この頃は、大学応援団の成長期といえます

◆ 5 成り立ちについて

しかし

- 昭和の終わりから平成の時代に入ると、各大学応援団に所属する応援団員が急激に減少するようになりました
- このような状況のため、改革に取り組む団体が多いです
- 近年では、高校などで部活動として応援団に所属した学生が、休部中の大学応援団を再興する事例も増えています
- 今後、高校応援団と大学応援団の関係が深まることで、日本の学生応援団全体への好影響につながっていくことが望ましいといえます

多彩な活動を行ってきた大学応援団

その魅力、面白さは何でしょうか

◆ 6 魅力について

- 大学応援団は、非常に奥深い魅力を有していますが、体験しなければ伝わりにくいものです
- このため、その魅力を以下のとおり明らかにします
 - (1) 一体感ある応援を作るとともに、間近で感動を共有できること
 - (2) 応援活動を通じて多くの人と繋がりが持てること
 - (3) 大学の歴史と伝統に触れ、それを守ること
 - (4) 身体・精神を鍛え、自らの成長を感じられること
 - (5) 実学を学ぶ機会を得ること

◆ 6 魅力について

(1) 一体感ある応援を作るとともに、間近で感動を共有できること

具体的には

- 応援席をまとめ上げ一体感ある応援をプロデュースできることが大学応援団の魅力であり醍醐味
- 応援席を一体化させることができるのは、応援席を任せられた大学応援団のみ
- 選手に寄りそう立場から、試合に立ち会えることも魅力
- 選手と感動を共有することができます

◆ 6 魅力について

(2) 応援活動を通じて多くの人と繋がりが持てること

具体的には

- 多くの人々と応援を通じ繋がることのできる魅力
- 学友という仲間意識から繋がる輪であり、大学応援団特有の魅力
- 応援などの交流から生まれた様々な繋がりは、自分の大きな財産となっていきます

◆ 6 魅力について

(3) 大学の歴史と伝統に触れ、それを守ること

具体的には

- 大学応援団に所属することで、団体の伝統は勿論、大学そのものの歴史や伝統を学び、それを自分で表現できる魅力
- 大学応援団では、母校の文化をタイムカプセルのように継承しています
- そして、その中にいることで大学の培った伝統に触れることができます

◆ 6 魅力について

(4) 身体・精神を鍛える中で自らの成長を感じられること

具体的には

- 応援に必要な技術や体力、精神力を高めていく中で成長を感じられる魅力
- 応援の専門集団として応援技術を磨く中、心身の成長をはっきり実感することができます
- 良い応援を行うための試行錯誤の中で、いろいろな気づきができ、自分を変えるきっかけにもなります

◆ 6 魅力について

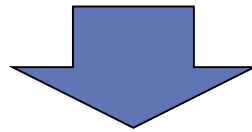
(5) 実学を学ぶ機会を得ること

具体的には

- 社会で実用できる知識を大学生のうちに身に付けることができる魅力
- 大学応援団では、様々な場面で実用できる知識を組織的に教えているので、自然と身に付けることができます

◆ 6 魅力について

- 大学応援団の魅力は、四年間かけて応援団に所属することで全てを経験できるものです
- 少し足を踏み入れるだけでも、体験することはできます



- ぜひ、学生の皆さんには、大学応援団のトビラをノックしてほしいと思います

いろいろな魅力が詰まった大学応援団

組織の中はどんな雰囲気でしょうか

◆ 7 組織風土について

- 組織風土とは、表面化した組織の価値観のことです

どんな背景からできてきたのでしょうか

- 団訓、上下関係、伝統を引き継いできたことなどが影響しています
- 団訓・・・明文化されることで、団体のカラーを示すとともに、組織の方向性を明確化しています
- 上下関係・・・整然とした雰囲気を作り出すなど、組織風土の基礎となっています
- 伝統・・・時代時代の雰囲気を微かに引き継いでいます

◆ 7 組織風土について

しかし

- 現在の大学応援団には大きな誤解もあります
- 例えば、「暴力的」「古い」「伝統に固執している」など
- 負のイメージは、大学応援団という組織が戦前戦後の激動期を経ながら今日まで存続してきたことに由来しています

◆ 7 組織風土について

- 例えば、「暴力的」
- 厳しい練習などが多いイメージがあります

なぜでしょうか

- 戦後、大学応援団が復興されると、復員した学生が厳しい練習や気風を持ち込んだほか、そもそも社会全体が殺伐としていて、大学応援団もその影響を強く受けました
- 軟弱では周囲に示しがつかないといった気概から、徐々に過剰な練習や運営につながっていきました

◆ 7 組織風土について

- 例えば、「古い」
- 大学応援団の歌う歌には、民謡や当時流行した歌の歌詞を替え振り付けし、応援歌として使用することが多いです

なぜでしょうか

- 当時の一般学生が良く知る歌を応援歌として使えば皆で歌え、盛り上がるためです

◆ 7 組織風土について

- 例えば、「伝統に固執している」
- 大学応援団では多くの決まり事があり、それを守ることが「伝統に固執している」といわれることがあります
- 現在では他に見られない、かつての「日本人の習わし」が残ったものといえます

なぜでしょうか

- 大学応援団は運動部と異なり、活動そのものの変化を求められることは少ないため、古い時代の日本人の習わしが残っていると考えられます

◆ 7 組織風土について

- 今日に残る大学応援団では、現代にそぐわない行動などを検証し、良いものは残し、悪しきものは改めるといった作業を行っています

つまり

- かつての日本の姿をかすかに残しつつも、今日の時代に合った団体であろうとしています
- 重要なことは、大学応援団自身が何を守るべきか、何を改めるべきかを検証し、取捨選択していくことです

大学応援団の中にいる応援団員は
どんなことを考え、活動しているのでしょうか

応援団員として、どんな人を目指せば
良いのでしょうか

◆ 8 応援団員のスピリットについて

応援団員らしさとは何でしょうか

- 「質実剛健」「自信に裏打ちされた堂々たる風格」「人を惹きつける魅力ある人間性」

応援団員らしさはどこから来るのでしょうか

- 応援団員として活動する中で培ったスピリット（こころ）が応援団らしさを作ります

応援団員のスピリットとは何でしょうか

- 端的に言えば「いき」「おとこ気」「奉仕の精神」など

◆ 8 応援団員のスピリットについて

「いき」とは何でしょうか

- 江戸時代に生まれた独自の美意識のことです。内面的には心意気の潔さであり、外面的にはさっぱりと洗練されたさまを指します

どのような人が「いき」になれるのでしょうか

- 下級生の時に、教えられたことを実直に行い、誤りは素直に反省し、次に生かす人
- そういう人は、芯を持った深みのある人間性を獲得し、その魅力で周囲を惹きつけていきます
- このような人を「いき」な人といいます

◆ 8 応援団員のスピリットについて

「おとこ気」とは何でしょうか

- 困っている友がいれば助けるという古い大学応援団の気質が大学応援団の根底にあります
- それは今日の活動の中にも受け継がれています

「奉仕の精神」とは何でしょうか

- 大学応援団の、人を応援するという利他主義の考え方それ自体が、日本人らしい精神を表しています

◆ 8 応援団員のスピリットについて

つまり

- 努力に裏打ちされた自信を抱きつつ、それをひけらかすことなく、応援にまい進する姿こそ、応援団員の美意識であり、生きざま = 応援団員のスピリットです

そして

- そのスピリットが、さわやかで洗練された服装や髪型、言葉遣い、立ち振る舞いなどになって表れてきます
- この姿に、多くの人々が応援団員らしさを感じます

◆ 9 大学応援団という「文化」について

- 文化とは、「精神的活動から生み出された有形・無形の成果の総体」のことです
- 大学応援団の持つ価値観は、大学応援団以外にない、独特の「文化」を形成しています

◆ 9 大学応援団という「文化」について

- 大学応援団には、動的な活動と静的な活動があります
- 動的な活動は、本来の応援活動や演技披露などに関するもので、身体面から生まれるものです
- 静的な活動は、動的な活動をために組織が培ってきた価値観などで、精神面から生まれるものです
- 大学応援団は所属する応援団員の「精神的活動から生み出された有形・無形の成果の総体」を持った組織です
⇒大学応援団という「文化」が存在しています

◆ 9 大学応援団という「文化」について

また

- 大学応援団は、身体面・精神面から生まれる我が国特有で価値の高い文化を保有しています
- 大学応援団は、それを体得した応援団員の集団であることから「無形文化財」といえます

◆ 9 大学応援団という「文化」について

- 大学応援団は、自分たちの活動を「無形文化財」ととらえ、この文化を正しく後世に残すよう、今こそ自分たちの活動を見つめ直し、深化を進めるべきです
- 大学生の限られた期間でしか経験できませんが、その経験などは自己の礎となり、生涯にわたっての財産となります

提 言

◆ 10 今後の大学応援団のための提言について

- 大学応援団は明確な目的・意義を有しており、多くの魅力を秘めた存在です

そして

- それらは総体として日本固有の無形文化といえます

しかし

- 大学応援団は様々な方との関係が重要であり、文化をただただ継承しているだけでは、劣化を招く恐れもあります

◆ 10 今後の大学応援団のための提言について

- 今後、大学応援団は自分たちの文化を「生きた文化」としてさらに深化、多様化していくことが必要です
- それぞれの大学応援団が、それぞれの活動の中で大学応援団の文化を深め、かつ多様化していくことを提言します